

「里海」の恵み体験を子どもたちへ― 渡子の海を味わおう

広島県呉市渡子小学校の実践

郷土料理の「もぶ りご飯」に挑戦

渡子小は海から3分とい

う恵まれた環境にある小学
校。2年生の生活科の授業
で、海の幸を使った伝統食
の「もぶりご飯」つくりに
挑戦しています。

野菜を育て、 釣りの体験も

まずは春、海へ行つて、
磯の生き物に親しむことか
ら始め、夏には野菜を育て

と。保護者や祖父母、地域
の人たちが一緒に参加し
て、1年間かけて、アジ釣
りや野菜づくりなどの体験
学習を行なっています。

春と秋の海の違いや魚の観
察で、身近な海と子どもた
ちをより深く結びつけるこ
と。このことで、ふるさと
のよさ・楽しさも見えてき

ます。もぶりご飯の調理は、
若い保護者も一緒に参加し
て、親子で食文化の伝承に



取り組んでいます。
（渡子小の体験活動は、「地
域に根ざした食育コンク
ル2005」で、審査委員

酪農現場から発信！ 子どもたちへの食農教育

北海道標津町4Hクラブの実践

地域産業「酪農」 の魅力を

農業後継者の集まりであ
る4Hクラブは、Hear
t・Head・Hand・
Healthを磨くために
さまざまな活動を実施して
います。子どもたちへの食
農教育に取り組んだのは、
標津町の基幹産業である酪

出前紙芝居・ 加工体験も

酪農を知ってもらうため

農をもっと知ってほしいと
の思いから。
毎年町内の小学校で「哺
乳・搾乳から食べるまでツ
アー」として、牛乳の生産
から食べるまでの体験学習
を行なっています。

の紙芝居「子牛はじめて物
語」を作成。子牛の誕生か
ら成長、生乳生産までを紹
介したもので、教育委員会
より絵本にもなりました。
他に、酪農道具を使った競
技が楽しめる「酪農運動
会」、アイスクリームやバ
ター作り体験など、酪農の
魅力を楽しくアピールして
います。
（標津町4Hクラブの活動



は、「地域に根ざした食育
コンクール2005」で、
審査委員会奨励賞を受賞

入会募集 地域に根ざした食農教育ネットワーク



ホームページ <http://syokunou.net>

食と農を軸に、子どもたちの生きる力を育む、活力ある地域をつくるネットワーク組織

学校区を核に、教師・農家・さまざまな職種の人々・団体の新しいつながりづくりや、地域の個性を生かした教材づくりを実践的に進めていきます。

①会員からのホットな情報をメールマガジンで定期的に配信します。

②インターネットにより、各地域の活動事例や助成事業の紹介、教材データベースを提供します。

③地域ごとに研究会を開き、実践交流を進めます。

★正会員の条件は「食農教育」の定期購読者であること。メールマガジン購読だけの「メルマガ会員」も可能。詳しくは下記ホームページが直接農文協へ。

地域に根ざした〈子どもの食育〉の手引き 地域から学校へ知恵と技を伝える

全国に広がる

「食農教育ネットワーク」

鹿児島、徳島、新潟に続き、山形で地域研究会が発足！

子どもと地域が
教師を動かした

食農教育はいのちの教
育。作物や土のふれあい

が子どもたちを輝かせ、そ
のひた向きな姿が、大人を

変える。「花粉症なので畑
仕事はできません」「土は

嫌いです」と話していた二
人の若い教師が、一年間の

取組みを終えて最後に、「子
どもたちや地域に私は変え

られました」と振り返った
。

これは昨年七月の「食農
教育ネットワーク（食農ネ

ット）」設立記念フォーラ
ムで、山形での取組みを発

表した米沢市立三沢西部小
学校（前任）、伊澤良治先

生の報告だ。
その全国フォーラムを受

け、このたび三月二十五日
に、食農ネットワーク山形地域研

究会が正式に発足した。地
域研究会としては、鹿児島、

徳島、新潟に次いで四番目。
伊澤先生をはじめ置賜地域

の『食農教育』誌読者九名
が呼びかけ人となり、昨秋

からの準備会や二度の運営
委員会を経て、今回の発足

記念集会にこぎつけた。



参加した農家から、グループ討議の報告

一人ひとりが主役の
ネットワーク組織

当日の参加者は、関係者
も含めて一七名。教員や

調理士のほか、有機農業を
実践する農家や食に関心を

寄せる一般の方など、多様
な立場の人びとが趣旨に賛

同。岐阜や埼玉、福島など
県外からも参加者が集まる

という盛況ぶりだ。
「この会は一人ひとりが

主役。ただ参加するだけで
なく、一人一〇分は自分の

ことを話す」（伊澤先生）
集会をめざし、基調講演は

なし。代表挨拶のあとは、
前後左右の六人ほどのグル

ープで自己紹介をし、自身
の実践や関心を話し合うと

いう集会運営となった。
先進事例の報告（高島町

立和田小学校、置賜農業高
校飯豊分校、たかはた共生

塾）では、とくに置賜農高
の生徒たちによる発表が印

象的だった。アレギーに
悩む子どもたちと向き合

い、もちアワのグラタンや
雑穀鍋など、独自のレシビ

を開発。保育園を訪問した
澤先生）ことになる。



地元の田園フォークソング
グループ「影法師」による
ミニライブも

地域に着実に根を下ろす 研究、実践集団へ

「このネットワークは一
時的なものにしてはいけな
い。日本の食を取り巻く状

況への危機意識を、地域に
浸透させていくことが大切

だ」。
こんなアンケート結果か

らも、参加者の決意と期待
の高まりがうかがえる。そ

の場で三〇人ほどが会員登録
（年会費二〇〇〇円）。

今後、年三回の実践研究会、
年一回の全県集会、年四回

程度の機関紙発行をとおし
て、「食農教育の研究、実

践集団として着実に仲間づ
くりをすすめていく」（伊

食育の豊富な人材バンク



ホームページ <http://www.ruralnet.or.jp/ouen/>

食と農の 応援団

「食はいのち」の認識を土
台に、食と農の望ましいあ
り方を究め、自ら実践して
いこうという、「食育」を支
援する応援団

★食と農をめぐる学習会や講演会、シ
ンポジウムの講師を下記ホームページ
で紹介。連絡先等をお教えします。

★現在、登録応援団員は332名。食、
農、健康、食育・食農教育の一級の研
究者から実践的指導者まで充実。

★ホームページでは名簿をはじめ、団
員からのメッセージや講演会・学習会
の告知、報告なども掲載。